別紙

R4年度 洋上通信の利用に関するアンケート調査（結果概要：事業者）

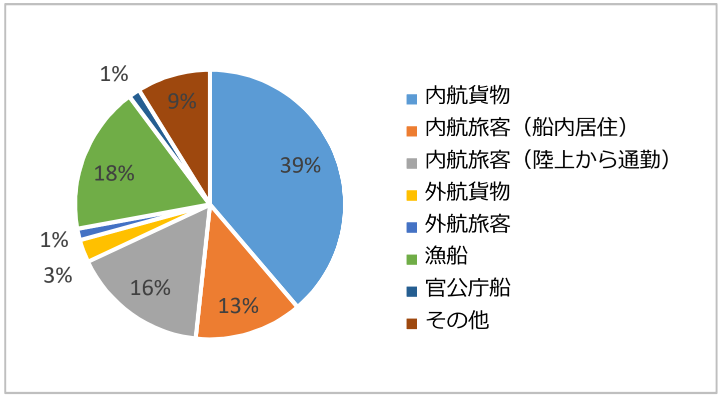
国土交通省

【実施概要】

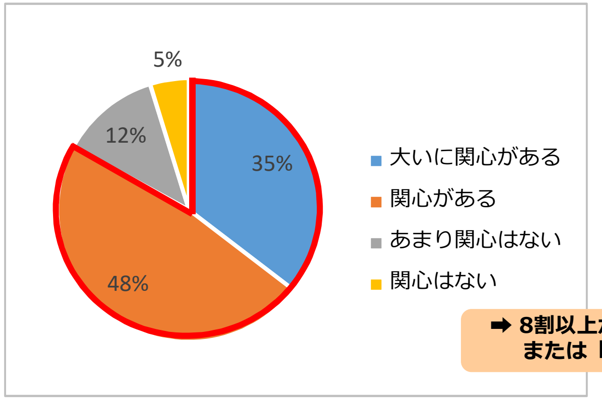
実施期間：　令和４年９月２日～１０月３１日
実施方法：　業界団体を通じて配布（地方運輸局窓口、Twitter等でも回答を呼び掛け）
調査結果：　１４７事業者、船員６５９名が回答

【結果概要：事業者】

１．回答者の事業形態（１４７事業者）

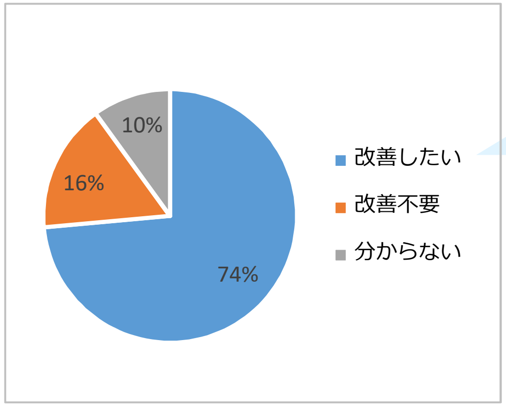


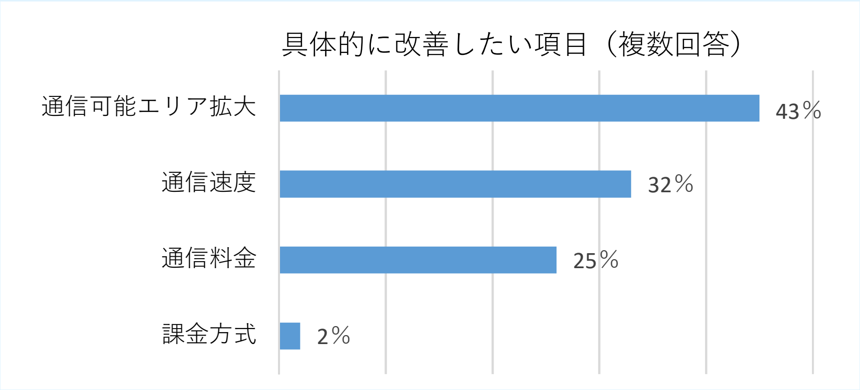
２．今後普及が見込まれる海上ブロードバンドサービスへの関心



➡ 8割以上が「大いに関心がある」
または「関心がある」と回答

３．船内のインターネット環境について

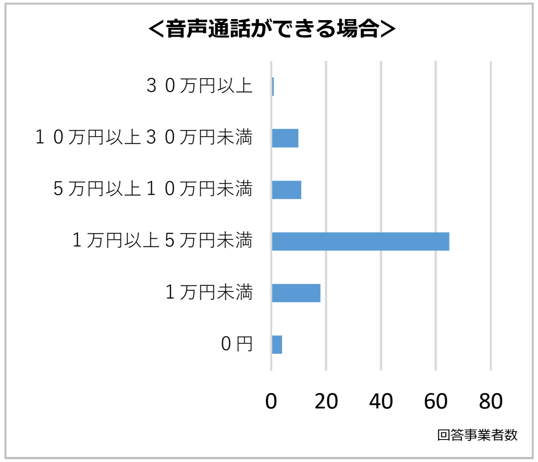


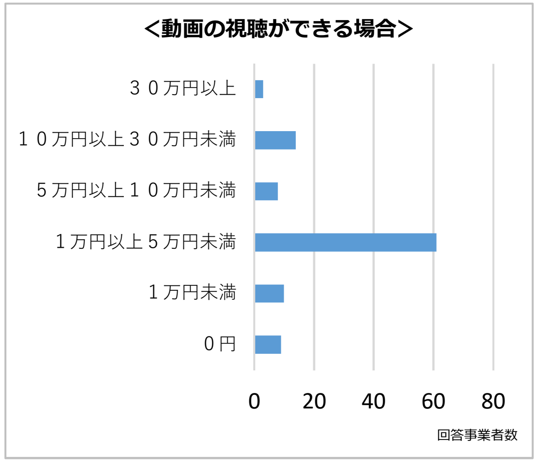


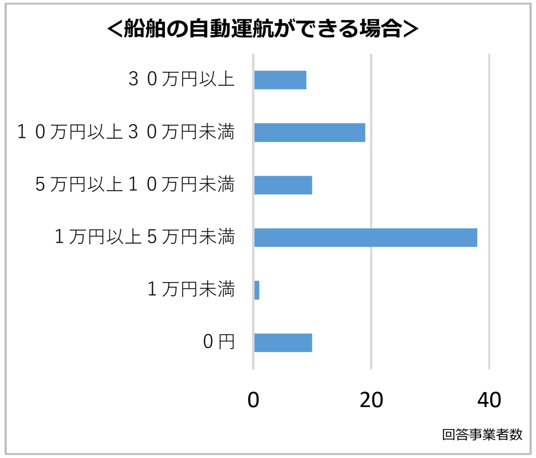
R4年度 洋上通信の利用に関するアンケート調査（結果概要：事業者）

【結果概要：事業者】

4．月に「１隻あたり」いくらくらいまでであれば、費用負担が可能か（月額）







単位：万円（中央値）

	音声通話ができる	ビデオ通話ができる	電子書籍が読める	動画の視聴ができる	洋上での遠隔医療ができる	船舶の自動運航ができる
全体	1	1	1	2	1.5	3
内航旅客（船内居住）	2	1.5	2	3	2	10
内航貨物	1	1	1	1	1.5	3
漁船	5	5	4	5	3.5	4

費用に関連する意見

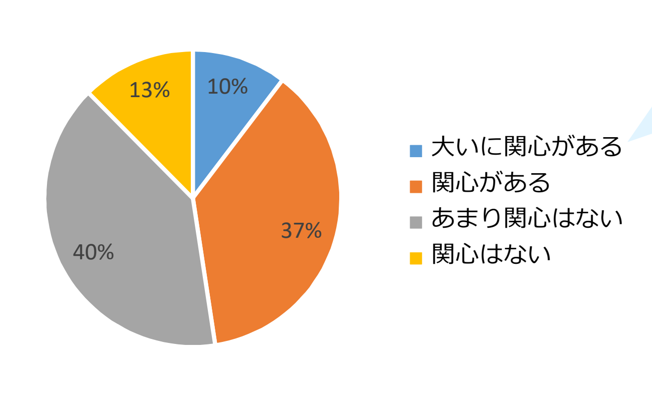
- 衛星インターネットという手もあるが、小さな内航船業者が手を出せる金額ではないため安くしてほしい。
- 船員の福利厚生向上の観点からも洋上インターネットには積極的に導入を進めたいが、利用料金が高すぎて現状では経営上厳しい。
- 会社としては、インターネット環境を整えたいが、それにかかる設備投資費用や毎月の固定費は陸上並みに抑えたい。
- 陸上と同様の品質で今よりもっと安価な衛星通信が出るとありがたい。

R4年度 洋上通信の利用に関するアンケート調査（結果概要：事業者）

国土交通省

【結果概要：事業者】

5．洋上での遠隔医療※への関心

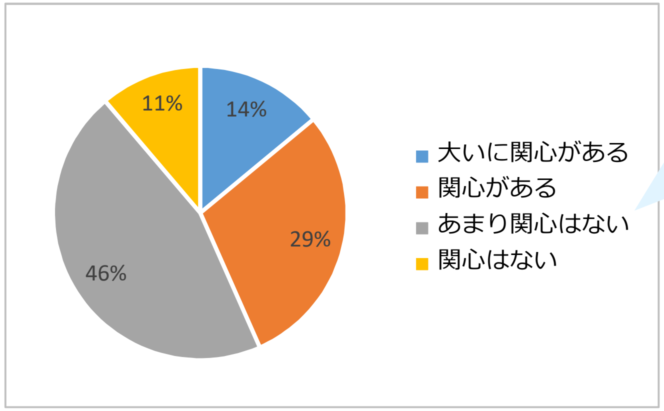


遠隔医療の導入で改善したい／改善が見込まれると考えられる抱える課題は？
そのためには、特にどのような制度・機能が必要ですか？

- 音声のみの支援ではなく、ビデオ通話を介して医師が遠隔で作業を指示できるような体制を構築したい。そのためには、ビデオ通話をスムーズにできるプランが安価な価格で契約できるオプションが望ましい。
- 急変した病状に関する問い合わせやメンタルヘルスの相談。処方箋をもらえる制度、処方薬を代理店に送ってもらえる機能が必要。
- 新型コロナウイルスにより、寄港地において気軽に病院に行くことが困難な環境の中で船内において医師からの指導を受けられ、少しでも船員に安心してもらえれば非常に良い。
- 船員の高齢化に伴い、生活習慣病等への不安があり、船員の健康サポートのあり方を考える手助けになると思う。　等

※遠隔医療とは、医師がWEB会議システム等の情報通信機器を用いて、洋上の船員に対し、診療（病気の診断や薬の処方等）や医療相談を行うこと

6．自動運航船への関心



自動運航船の導入で改善したい／改善が見込まれると考えられる抱える課題は？

- 船員の労働負担の軽減
- ヒューマンエラーの改善
- 悪天候時、狭水道航路時の運航支援による、航海当直業務の負荷軽減及び安全強化
- 船上生活が合わないなど陸上の仕事に転職した海技士資格所持者の有効活用
等

特にどのような制度・機能が必要ですか？

- 陸上から緊急時の遠隔操作の機能、離着岸の性能
- 漁船及び小型船を確実に避航できる性能
- 事故が起こった場合の責任の明確化が必要　等

7．その他意見

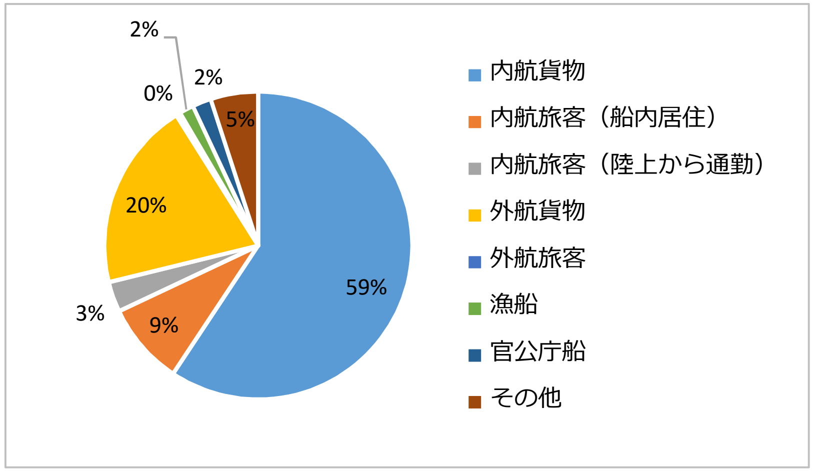
- 若手船員は船内の通信環境が安定していることを望んでおり、また会社としても本船と会社でサーバーを共有して業務を行なっているため、通信環境は非常に重要。今後、書類を無くしてサーバーで共有できるようにシフトするためにも通信環境の充実は非常に重要であると考えている。
- 現在コロナ禍で、乗組員たちの娯楽が減っている。そのためなおさらインターネットに対する乗組員たちの要求は大きく、通信速度や、通信環境の整備をしっかりとおこなってほしい。最近の学校訪問などでも、学生から、インターネット環境が整っているのかという質問を受ける。
- 現代人にとって必需品であるスマートフォンが何処の海域でも使用出来るようになればレジャー、漁船等の小型船の安全にも寄与できるのではないか。

R4年度 洋上通信の利用に関するアンケート調査（結果概要：船員）

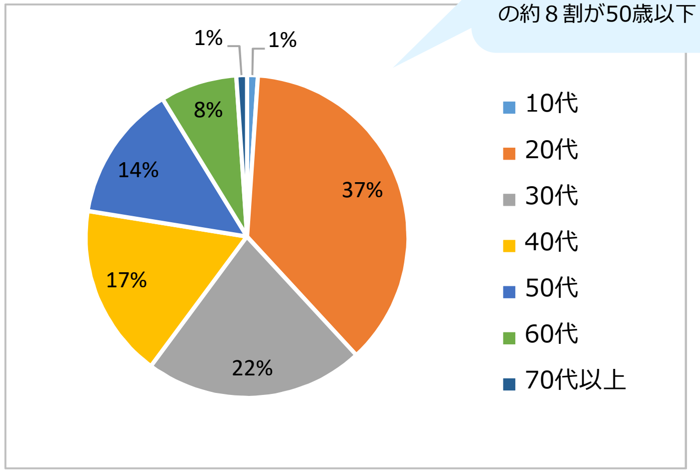
国土交通省

【結果概要：船員】

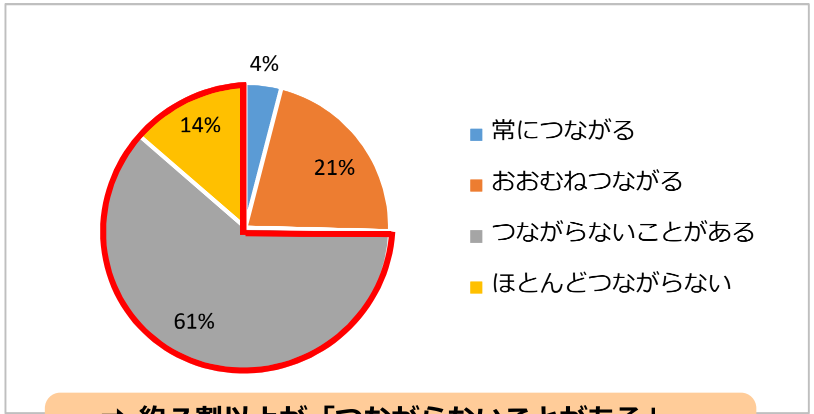
1．回答者の情報（６５９名）：内航船員の回答が約６割



内航船員は50歳以上の割合が44.6%（令和3年10月1日現在）
一方、今回のアンケートの回答者の約８割が50歳以下

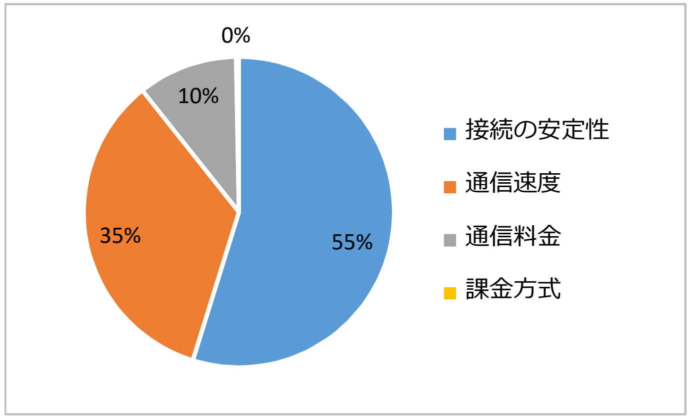


2．現在乗っている船舶におけるスマートフォンの通信状況



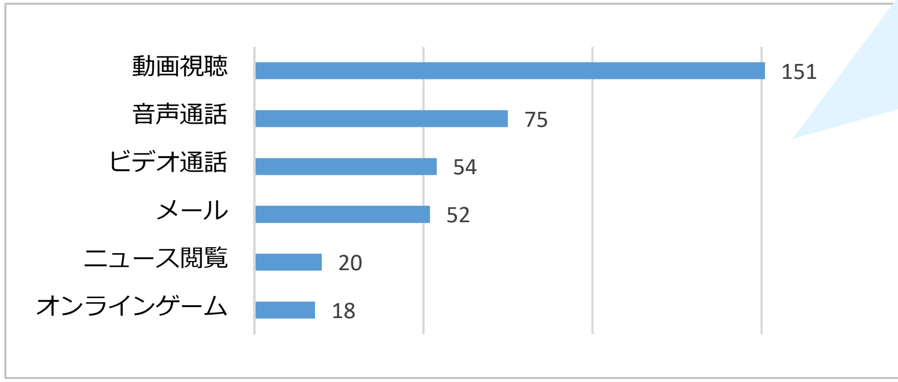
➡ 約７割以上が「つながらないことがある」、
または「ほとんどつながらない」と回答

3．インターネットを利用するにあたって、最も重視すること



【結果概要：船員】

4．業務外の休憩時間等に沖合でも利用したい インターネットサービスの優先順位（複数回答式）



電波が沖合でもつながるようになった場合のプライベートでのインターネット使用時間（１週間の見込み）は？

動画視聴６時間、ニュース閲覧２時間、音声通話１時間（中央値）
→ 約2GB/週、**月単位では約８GB以上必要**※

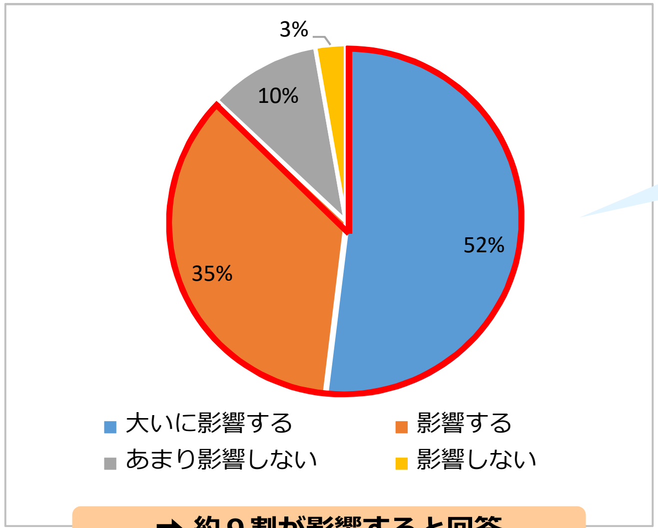
※各社HP等を参考に総務省が作成したデータ通信量の目安を元に推計

電波が沖合でもつながるようになるのであれば、必要に応じ、自己負担しても良いと考える「一ヵ月の洋上でのインターネット通信料金」は？

約千円（中央値）

「労働環境の改善、福利厚生として会社で負担するべき」という意見がある一方で「従量課金なら情報の必要度合いに応じていくらでも払う」という意見も

5．船員を職業とする上で、洋上で電話やインターネットがつながるか否かは、どの程度影響するか



➡ 約９割が影響すると回答

洋上で電話やインターネットがつながる船に比べて、月にいくらくらい賃金が高ければ、インターネットがつながらない船に乗船しても良いと思いますか？

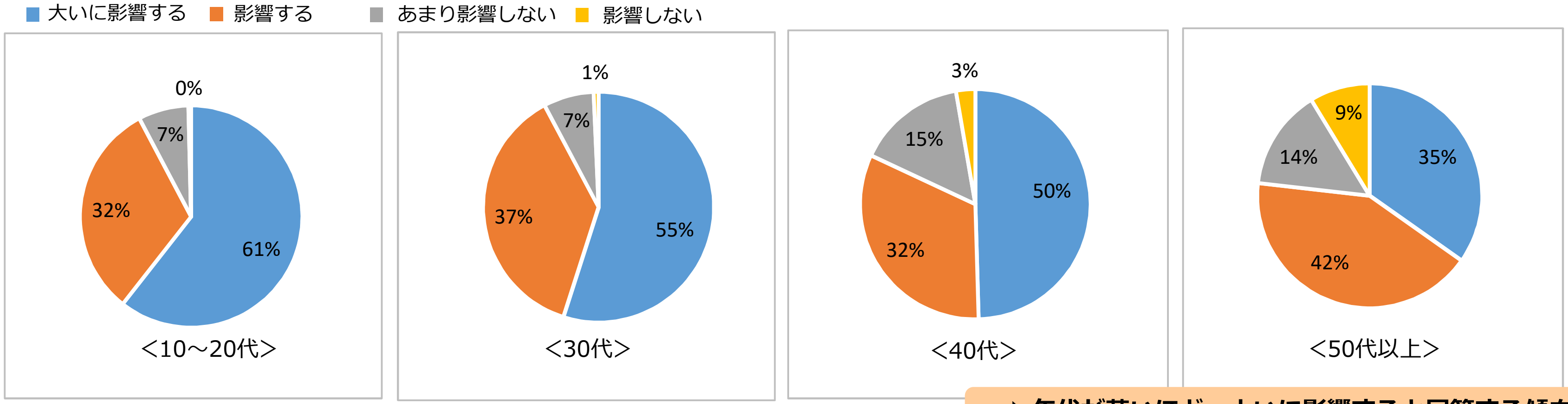
約10万円（中央値）

【関連ご意見】
・賃金が上がったとしても、一ヵ月電波無しは乗船するか正直迷う。
・もしインターネットが繋がらない船であったら乗りません。私たち若者世代にとっては必要なものです。
・今の時代なんでも携帯なので、使えないと本当にきついです。いつまで我慢できるかわかりません。

国土交通省

【結果概要：船員】

年代別：船員を職業とする上で、洋上で電話やインターネットがつながるか否かは、どの程度影響するか



➡ 年代が若いほど、大いに影響すると回答する傾向

６．その他意見

（船員の働き方）

- 若い船員を惹きつけるためにも電波の環境を少しでも整えて貰いたい。
- 日本人だけでなく、外国人の若者船員にとって、電波は酸素のようなもの。仕事のパフォーマンス、精神衛生に大きく影響するファクターと考える。
- 外航船は家族を大事にする外国人船員も多く、電波が繋がるかどうかは雇用にも大きく関わる。
- 会社の上層部は高齢の方が多く、若い世代の船内でのネットの使用に不快感を抱いてる印象。ネットは家族と離れてくらす船乗りには欠かせないツールの一つであることを理解してほしい。
- 長い期間家族と離れ離れになるので、少なくとも時間帯を選ばずテレビ電話が普通に出来る環境になればとても魅力的。
- やはり繋がらない時に家族が体調が悪くなると大変心配なので、課金するイリジウム電話のように、同じく課金してインターネットに繋がるシステムでいいので欲しい。

（業務効率の改善）

- インターネット普及により、業務効率向上が見込める為、早急に普及していただきたい。
- 業務上電波がないため、検疫関係の書類を指定時間に送れないトラブルなどがあった。
- 海象を調べたくても自室から繋がらない。また、必要な連絡が遅れると周辺に迷惑がかかる。

（その他）

- 無ければ無いで煩わしい人間関係から遠ざかるので気楽という側面もある。